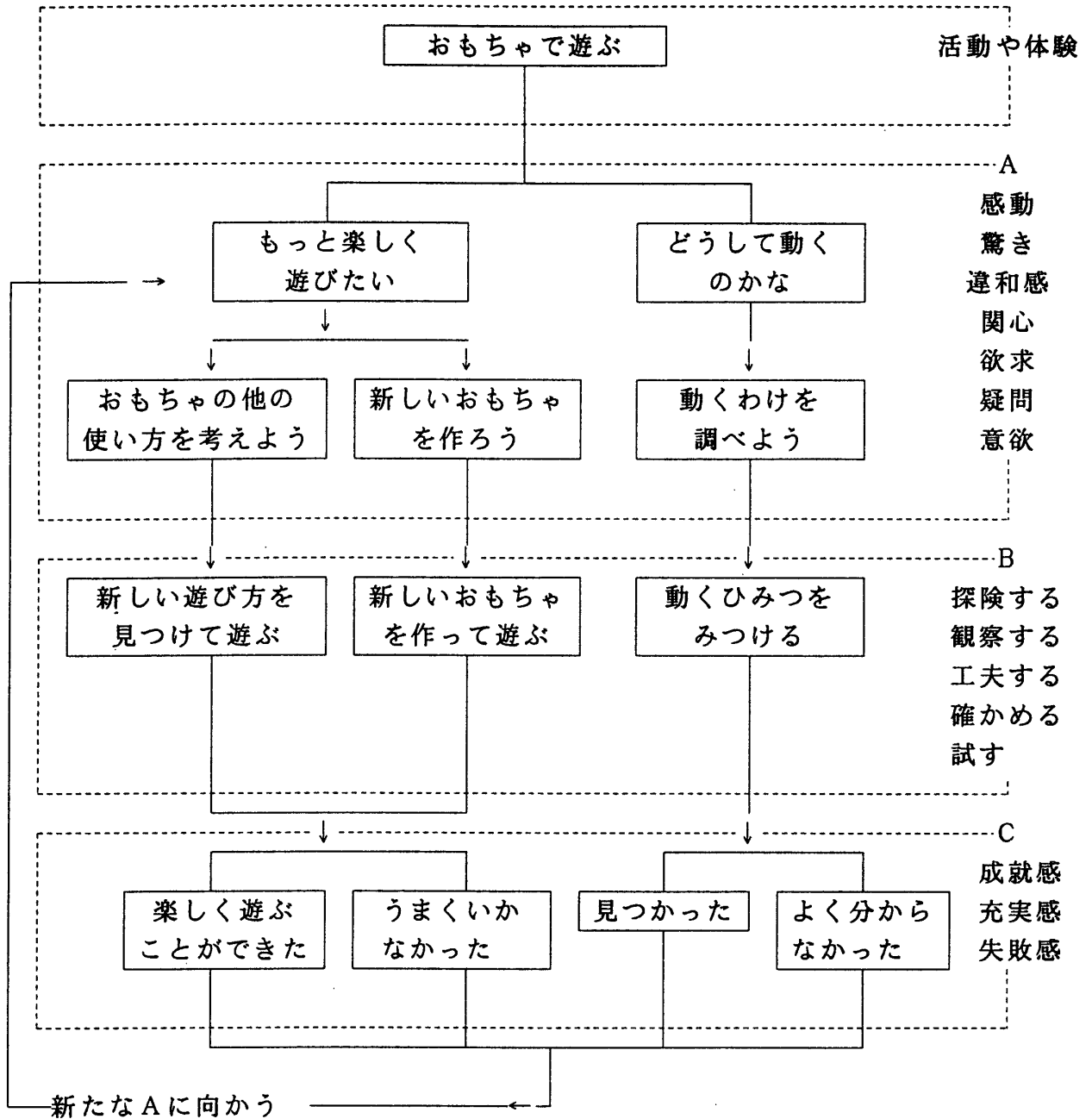


生活科において豊かな気づきや感じ方をもった子どもの姿



5 生活科

吉浦 公子

1 本校における生活科の基本的な考え

新しい学力観に立つ教育においては、子どもの思いや願いをもとにして、新たな課題に取り組む、自ら考え判断し、表現することを重視している。また、その過程で子どもが自分の力で新しい知識や技能を身につけ、学習や生活に生きて働くことを目指している。

小学校指導書生活編の示すように、「・・・具体的な活動や体験を通して、よき生活者として求められる能力や態度を育てる事であり、つまるところ自立への基礎を養うことをめざしている」生活科は、そのまま新しい学力観に立つ教育であるといえよう。

本校の生活科においても、「子どもたちに、『生活』を持たせ、子どもたちの価値観を軸にして学習展開を図る。その生活の場で、生きる力を自らの手でつかみ取らせる」という指導理念のもとに、次の図で示すような基本的な考えにおいて生活科学習を実践してきた。

変化する社会に主体的にたくましく生きる力を育てる

↑

自ら、体全体で働きかけ、試行錯誤を繰り返しながら、
よりよく生きる知恵を身につける。

(生きて働く知恵)

<体験による教育，体験が生きる学習>

2 生活科で育てたい学力

本校の基本的な考えのもとに、生活科においてめざす学力を具体的な児童の姿としてとらえてみると、次のように描くことができる。¹⁾

- (1) 具体的な活動や体験を通して、知的な問いや実践的な欲求を見つける子ども
「なぜ、〇〇なのだろう」「どうしたらもっと〇〇できるのだろう」
- (2) 自分で見つけた問題について、自分なりに解決する方法を考えたり、判断したりする子ども
「どうやって調べればよいのだろう」「どうしたらできるだろう」
- (3) 自分で気づいたり感じたことを豊かに表現する子ども
- (4) 自分や友だちのしたこと（していること）をふりかえる子ども

これらの学力については、平成4年度以前の一連の本校研究主題である「個が生きる授業の創造」「個が生きる授業の評価」「自己を高める評価力の育成」の実践・研究の中で、その育成に取り組んできた。昨年度より、「感性を育む」という視点において、より一人一人の主体的な学習を重視していく生活科の支援のあり方について研究を進めている。

3 豊かな感性を育む活動にするために

本校生活科では、昨年度より「子どもの豊かな気づきや感じ方を育てる生活科の支援」をテーマとして実践・研究を進めてきた。昨年度は、活動や体験の中で、楽しさやおもしろさを感じることに焦点をあてた。その実践の中から、豊かな感性を育む活動や体験においては、次の点が大

切であることが明らかとなった。

- 子どもたちが体験の楽しさを実感できる。
- 子どもたちの力で工夫することが可能である。
- 本物を丸ごと体験できる。(時間的、空間的にも)

このことをふまえて、2年次である本年度は、活動や体験の中から問題を見つける力、自分なりの調べ方や表現の仕方、遊び方を工夫する力を育む支援について焦点をあてることにした。

4 子どもの豊かな気づきや感じ方を育む生活科の支援

子どもの豊かな気づきや感じ方を育む生活科の支援を考える際、その基本としては、次のような点を考えている。なお、右に示したのは、本校の考える豊かな気づきや感じ方を育む生活科の学習ステップと各過程における支援の例である。

(1) 具体的な支援(直接体験を通して)

① 一人一人の生き方の面から活動や体験をとらえていく。

一人一人の豊かな気づきや感じ方を育む上でも、生活科における活動や体験が、その子どもの生き方とどう関連しているのかについて、教師がとらえておくことが必要である。その子どものこれまでの体験や、学習での体験に対する思いや受けとめ方を把握しておくことをこれまで以上に重視していく。

② 子どもの自由な発想を大切に活動にする。

一人一人の豊かな発想が生きる活動するために、子どもと活動しながら、学習内容を見つけ、その内容を深めていくようにする。

③ 対象と深く関わるができるようにする。

関わりにおいては、実際の行動だけでなく、アニミズム的な感情等も含めた精神的、情意面も重視していく。

④ 子どもが自分を取り戻す場、見直す場を設定する。

学習の中で、その子なりの問いや方法を自分で見つけることができた自分に気づかせることができる学習過程や振り返りの場を大切にしていく。

(2) 教師自身の感性において

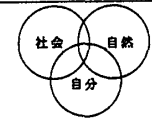
子どもの豊かな気づきや感じ方を育むためには、教師自身の感性もこれまで以上に重要となる。

例えば、教師自身に得意なものがある、子どもが気づき・感じたことをつかむことができる、子ども一人一人のもつ「よさ」を内面から大切に受けとめようとするなどがあげられよう。

<註>

1) 「育てたい学力と学習のステップ」については、第100回本校教育研究会生活科協議会における小原友行氏(広島大学学校教育学部)のご助言を参考とした。

豊かな気づきや感じ方を育む学習ステップと教師の支援

豊かな気づきや感じ方を育む学習ステップ	めざす子どもの姿	豊かな気づきや感じ方を育む教師の支援
 <p>環境と出会う 活動や体験 感動・驚き・違和感・関心 欲求・疑問・意欲</p> <p><めあてをもつ> 自分なりの問題を見つける ↑ ↓ もっとよい・・・にしよう ↑ ↓ どうしたら・・・できるか ↑ ↓ ...はどこか探そう ↑ ↓ なぜ・・・なのか調べよう</p> <p><めあてを追究する> 自分なりの解決方法を 考えて実践する ↑ ↓ 探検する・観察する ↑ ↓ 工夫する・遊ぶ ↑ ↓ 育てる・作る ↑ ↓ 表現する(文章、言葉、 ↑ ↓ 絵、造形、身体)</p> <p><振り返る> 自分の活動を振り返る ↑ ↓ 成就感 ↑ ↓ 充実感 ↑ ↓ 失敗感 (新たな問題を見つける)</p> <p>↓ よりよく生きる知恵</p>	<p>○ 活動や体験の中で おもしろさを感じる ・それまでの自分の 体験や知識をもと に</p> <p>○ 活動や体験の中 から問題を見つける</p> <p>○ 自分なりの調べ方 や遊び方を考える ○ 自分の考えたこと を実践する ○ 自分なりの方法で 表現する</p> <p>○ 自己評価や相互評 価をする</p> <p>○ 体験や活動をもと に新たな問題をみつ ける</p>	<p>自分で気づき、判断し 実践する活動の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの体験、学習での 体験に対する思いや受けとめ 方をとらえる。 ・ 本物との総合的な(まるごと の)かわりを大切にす (事象との出会いの中での 子どもの気づきや感じ方) ・ 一人一人の子どもの思いや 願いをとらえて、問題の見 つけ方、発見の仕方にかかわ る助言をする。 ・ 一人一人の活動を共感的に 理解し、助長していく。 (めあての追究の中での 子どもの気づきや感じ方) ・ 子どもの思いや願いが生 きる弾力的な学習展開を図る ・ 児童の活動を見守りながら 支援の方法・時期をとらえる ・ 自分なりの問いや方法を見 つけることのできた自分に気 づかせる場の設定をする。 ・ 授業後も子どもがめあてを 追究し続けられるように、 評価と支援を続ける。 (日常生活との一体化)